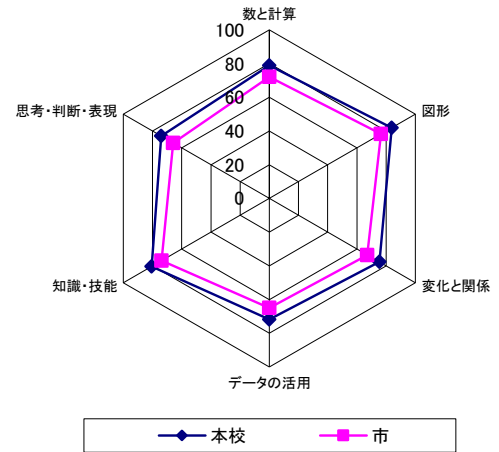


宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.9	72.1	74.6
	図形	83.8	76.5	76.1
	変化と関係	75.3	67.1	59.7
	データの活用	71.8	65.0	64.5
観点別	知識・技能	80.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	74.0	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○全ての設問の正答率が、市の平均を上回っている。小数、分数の計算の正答率が高く、よく理解できている児童が多いことが分かる。</p> <p>●文字と式の問題で、文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表す問題の正答率は市の平均を上回っているが、66.7%とやや低い正答率だった。</p>	<p>・小数や分数の計算などの基本となる四則計算練習は、AIドリルを活用するなどして、繰り返し復習し、定着を図っていく。</p> <p>・2つの数量関係を式や数直線を使って表す活動を行い、文字と式への理解を深めていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○全ての設問の正答率が、市の平均を上回っている。面積と体積、合同・立体の問題において特に正答率が高く、よく理解できている児童が多いことが分かる。</p> <p>●対称な図形の問題で、線対称な図形の対応する点についての問題は、市の平均を5ポイント以上上回っていたが、正答率が56.7%で低い。線対称な図形について十分理解できていない様子が伺える。</p>	<p>・実際に図形を描いたり動かしたりする活動など、具体的な作業を取り入れ、対象な図形についての理解を深めていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○単位量あたりの大きさ・速さに関する内容で、道のりを求める問題や込み具合を求める問題の正答率が80%を超えており、よく理解できている児童が多いことが分かる。</p> <p>●割合・割合のグラフに関する内容で、円グラフを読み取る問題の正答率は61.1%で、やや低い正答率だった。</p>	<p>・定価と値引きや割合を求める問題などは、日常の様々な場面を例に、実生活と関連付けた事象を取り扱うことで興味関心を持って学習できるよう工夫する。</p> <p>・今後も、単位量あたりの大きさや速さ、割合や割合のグラフに関する内容の問題について復習する時間を設け、学習の更なる定着を図っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○平均・データの見方に関する内容で、ドットプロットから最頻値を読み取ったり、度数分布表を完成させたりする問題の正答率はどちらも80%を超えており、よく理解できている児童が多いことが分かる。</p> <p>●ヒトグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題は、市の平均を上回っているが、正答率が44.4%で全問題の中で最も低い正答率だった。</p>	<p>・目的に合わせたデータの収集や分類整理、表やグラフ、代表値の適切な選択など、一連の統計的な問題解決の方法を理解することができるように指導していく。</p>